

society&business Tokyo25 journal 25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

幕末動乱、志士たちの万葉集 「歌剣の維新歌」を出版

青梅市の吉田慎太郎さん

歌で綴る幕末史。青梅市在住の吉田慎太郎さんが、この1月に上梓した『歌剣の維新歌』（展転社）が挑んだテーマである。取り上げた志士たちは120人余。それぞれが示した精神と行動を彼らが詠んだ和歌を通して描き出した。

(岡村繁雄)

幕末・維新を端的に表現すれば動乱といっ

とが、彼らの歌に接することで理解できる」といふ。



志士の人生と時代を語る吉田さん

民の声も集めながら、悲劇の戦史に取り組み。定価2750円(税込)。一般書店やインターネットで購入できる。

歌剣の維新歌

歌で綴る幕末史―純粋行動者の系譜

吉田慎太郎

波乱激動の幕末を和歌の視点で描き出す！
西洋列強が日本に牙をむく波乱激動の幕末、青年志士らが惜しみなく一身を賭して立ち上った。その行動と精神を、彼らの歌に託って実感的・体感的に伝える。

相談ボランティアを募集 東京多摩いのちの電話

認定NPO法人東京多摩いのちの電話(国分寺市)は現在、2025年度の相談ボランティア40期生を募集している。事務局は「1人でも多くの相談員を増やしたい」と呼びかける。

同団体は1985年の開局以来、100人を超す相談員が毎日交代で電話を受けている。明日の悩みを抱え、日々を過ごす人は少なくない。そうした人た

多摩自慢で「立春朝搾り」 栄屋酒店(日の出町)は長野からも搬入

立春の2月3日、搾りたての新酒をその日のうちに出荷する催し「立春朝搾り」が、「多摩自慢」の蔵元である石川酒造(福生市熊川)



「立春朝搾りの取り組みはライブ」と石川社長

で行われた。春の始まりを祝おうと、酒販店主らから成る「日本名門酒会」が主催し、1998(平成10)年から続くイベントで、全国41の蔵元で開かれた。同酒造は2018(平成30)年から参加する。



栄屋酒店では早速店頭と並んだ

旬に仕込んだ酒を当日未明から搾り、朝までに瓶詰め。720ミリ瓶の新酒は、地元・熊川神社の宮司によるおはらいを受け、同酒造に集まった酒販店主に引き渡された。

同酒造の石川彌八郎社長は「立春朝搾りの取り組みは正にライブ。客と蔵元が一体と

はむら激辛フェス開催中
41店舗で多彩なメニュー

「第9回はむら激辛フェス2025」が羽村市内41店舗で開催さ

患者様からの感謝の声 行ったその日から痛みやわらぐ

あきるの波多野整骨院



ひざの痛みでお悩みの方へ

ひざが痛くて歩けない、腰が痛くて辛い、ヘルニアで足がしびれる、最近多い脊柱管狭窄症に悩む人も、「きちんとした治療を受ければ、本当に良くなる」。そう語るのはあきるの波多野整骨院(腰痛研究所併設)の波多野良夫院長(71)。

その波多野院長へ3年前から同院へ通うあきるの野市在住でアパレル販売員の川口民江さんから感謝の声が寄せられた。川口さんは42歳から変形性膝関節症になり、整形外科で水が溜まると注射で抜き、なれる一日で、私も染しみにしている」とあいさつした。日の出町大久野の栄屋酒店では、長野県安曇野の大雪渓酒造に「立春朝搾り」を取りに行った店主の箕輪豪昭さんに代わり、長女の絵理さんが石川酒造を訪れた。10時過ぎに店に持ち帰ると早速、予約客に届けた。

あきる野市秋川5-1-2 P4台

ヒアルロン酸を入れる治療を繰り返していた。義姉の勧めで同院へ。波多野院長の説明と施術で、行ったその日に信じられないほど膝の痛みがやわらいだという。4月から通院4年目になるが、「スタッフの皆さんの親切な対応、清潔な院内は気持ちよく、今後も定期的に通院したいと思います」と語る。

あきる野市秋川5-1-2 P4台

市商工会青年部。市内で採れた青唐辛子を使った参加店独自の唐揚げ、ハンバーグ、オムライス、焼き鳥、ナポリタン、カレーライス、麺類など激辛メニューを提供する。

期間中、スタンプラリーを実施。5店舗分、15店舗分、20店舗分を集めると賞品ももらえる。また、最多店舗賞は抽選で1人に羽村市商業協同組合商品券1万円分を贈る。

2月28日まで。景品引き換え・応募期間は2月3日～3月7日。